

炭疽病耐病性イチゴオリジナル品種の育成経過報告

～果実品質により400個体あまりを選抜（一次選抜）～

1. はじめに

近年、イチゴ産地では、炭疽病による被害が大きな問題となっている。炭疽病は、育苗期を中心に発生し、発病すると株の萎凋・枯死を引き起こす。また、周辺の株へも拡がりやすいため、甚大な苗不足を引き起こし、本圃での栽培に大きな影響を与える。

本県の育成品種‘まりひめ’および主要品種‘さちのか’は炭疽病に弱いため、炭疽病に耐病性を持つ品種の育成が熱望されている。農業試験場では2012年度より果実品質に優れた炭疽病耐病性イチゴの育成に取り組んでいる。ここでは、果実品質による一次選抜（個体選抜）結果を紹介する。

表1 交配組合せと一次選抜における定植数と選抜数

交雑組合せ		定植数	選抜数
子房親	花粉親	(個体)	(個体)
かおり野	こいのか	1962	100
こいのか	かおり野	1505	62
小計		3467	162
かおり野	さちのか	1671	86
さちのか	かおり野	1888	88
小計		3559	174
かおり野	まりひめ	1235	57
まりひめ	かおり野	1393	69
小計		2628	126
合計		9654	462

注)果実品質(食味、色、形、硬さ、大きさ等)により選抜を実施した。

2. 育種目標

‘まりひめ’と同等の果実品質を有し、‘とよのか’と同等以上の炭疽病耐病性を有する品種を育成する。

3. 交雑組合せ

‘かおり野’（早生、多収で炭疽病抵抗性）と‘こいのか’、‘さちのか’、‘まりひめ’（炭疽病には罹病性であるが果実品質に優れる）の正逆交雑による6組合せとした（表1）。

4. 育成経過

- 2012年3～4月に人工交配、5～6月に採種・播種を実施した。
- 得られた実生苗9,654個体を9月下旬～10月上旬に農業試験場内のビニルハウス内に定植した（表1）。
- 2012年12月～2013年4月にかけて一次選抜を実施し、果実品質（食味、色、形、硬さ、大きさ等）の優れる462個体を選抜した（表1）。

5. 今後の育成スケジュール

2013年度は、一次選抜系統に対して、炭疽病抵抗性検定および早晩性、果実品質での二次選抜を実施する。

その後も、早晩性や果実品質、収量性、炭疽病抵抗性等の系統適応性試験および現地適応性試験を実施し、2015年度内の品種登録出願を目指している。

（栽培部 田中寿弥）

和歌山県農業試験場

農業試験場ニュース No.121

平成25年7月1日発行

編集・発行 和歌山県農業試験場

〒640-0423 和歌山県紀の川市貴志川町高尾160

電話：0736-64-2300（代）FAX：0736-65-2016

<http://www.pref.wakayama.lg.jp/prefg/070109/gaiyou/001/001.htm>

